第１回北海道史編さん委員会　議事概要

１　日　時　平成30年６月28日（木）14:00～15:30
２　場　所　北海道庁赤れんが庁舎　２階１号会議室
３　出席者
（１）北海道史編さん委員会委員（五十音順）
折谷委員、北野委員、桑原委員、小磯委員、坂下委員、杉山委員、瀬尾委員、田端委員、富田委員、中井委員、西田委員、吉田委員
（２）北海道
辻副知事、村井法務・法人局長、靏原道史編さん室長、佐藤法制文書課長、菅井主幹、中谷主幹
４　概　要
【挨　拶】（辻副知事）
【委員長の選出】
・　委員の互選により、委員長に小磯委員が選出され、小磯委員長により田端委員が委員長職務代理者の指名を受けた。
【諮　問】
・　辻副知事より小磯委員長に諮問書を手交。（資料１）
【議　事】
（１）北海道史編さん委員会について
① 北海道史編さん委員会運営要綱について
○　事務局より説明（資料２、３、参考資料１、２、３）
○　原案どおり承認
② 部会委員及び部会長の指名について
○　事務局より説明（資料４、５、５（事務局案））
○　小磯委員長により事務局案のとおり指名された。
（２）「北海道史編さん委員会 道史編さん計画」の作成について
○　事務局より説明（資料６－１、６－２）
○　委員からの主な意見
（北野委員）
・これまでの議論を踏まえるとこれで良いと思う。
（折谷委員）
・誌名はわかりやすく道民の人が広く手にとっていただきやすい表題が良い。
（吉田委員）
・これまでの誌名は、編さんの範囲が誌名を見ただけではわかりずらいので、現代史であれば現代史とはっきり書く方が使いやすい。
（田端委員）
・今回の北海道史の編さんは戦後史を中心とするという基本方針に対し、それでは不十分であるとの意見が、昨年の有識者懇談会においても出ていたし、我々北海道史研究

協議会ほかの団体からも昨年５月に知事宛の要望書を提出した。その要望書の意見はどのように検討され、どのように反映されているか。

（中井委員）

・目に見える北海道の景観史をつくられてはどうか。デジタル化・視覚文化の時代にふさわしい視覚情報を含んだ北海道史が必要ではないか。

（小磯委員長）

・札幌市史はデジタル化作業をほぼ終えた。新しい北海道史の媒体としてデジタル技術の活用した刊行についての議論は、かなり重要。

（西田委員）

・函館市史がそうであるように、パソコンで検索できるようになると非常に身近に感じられる。今回の編さんを一つの塊として見た場合、「新修　北海道史」でもよいが、一般になじみのある用語ではない。また、アイヌ史はどういう分量で入れることができるか。

（坂下委員）

・これまでの議論の中で、時代設定は、時間や予算の関係で戦後からとなったが、戦後から割り切ることはなかなかできないので、弾力的運用をすることになった。

（桑原委員）

・これまでの議論の中で、アイヌ史の問題はどの巻にもまたがる内容なのでそれぞれの巻で扱うのがよいということになった。

・今日いただいた意見を生かしていくよう、各部会で前向きに運んで参りたい。

○　事務局より

・昨年５月に歴史系７団体から知事宛の要望書をいただいた。それまでは新北海道史が対象としていた１９７０年頃以降をと考えていたが、要望を受け、「新北海道史」の扱った時代とは一部重なるものの１９４５年以降とし、また、先史時代以降に関する新しい知見については「概説」の中で盛り込むという案で有識者懇談会に示し、最終的にご了解いただいた。

・「概説」の形はこれからの検討になるが、写真をたくさん使い、視覚的にわかりやすくするのは大事なご意見。

・デジタル化には技術的な課題もあるが積極的に議論していただきたい。

○　今後企画編集部会を中心に検討し、次回の委員会で決定することとなった。

（３）その他

○　事務局より平成３０年度の各部会の活動予定について説明（資料７）

○　原案どおり進めていくことで承認

（閉会）